

日本色彩学会第53回全国大会 [名古屋]'22のご案内

第53回全国大会実行委員長 羽成 隆司 (椋山女学園大学)

日本色彩学会第53回全国大会 [名古屋]'22は、大会テーマを「カラー・レジリエンス Our transition toward COLOR resilience」として、コロナ禍で中断していた現地開催の大会を2年半ぶりに再開させる予定で準備を進めております。日本色彩学会の大会としては初めての、現地とオンラインのハイブリッド開催です(6月の感染状況によっては全面オンラインになる可能性もあります)。

閲読を通過した研究発表66件に魅力的な招待講演と特別学術講演が加わり、2日間のプログラムを構成しました。大勢の皆様のご参加をお待ちしています。

第1弾(2021年12月広報)
Before Day第2弾(2022年3月広報)
Sunrise第3弾(2022年5月広報)
Nice Day

基本情報

開催日程：2022年6月25日(土)・26日(日)

開催形態：現地とオンラインのハイブリッド開催

会 場：〈現地参加〉

椋山女学園大学 星が丘キャンパス
〒464-8662 名古屋市千種区星が丘元町17-3
※名古屋駅より地下鉄東山線で20分
※「星ヶ丘」下車, 6番出口より徒歩5分

〈オンライン参加〉

参加者限定サイトからZoomアクセス

大会サイト：<https://www.color-science.jp/zenkoku2022/>

参加者限定サイト：6月初旬に公開予定





参加手続き

- ・参加手続きは、①参加費支払い、および、②参加登録の2つをセットで終わると、ようやく完了します。
- ・「前納」が大変お得です。お早めの手続きをおすすめします。
- ・登壇者の方は、5月25日(水)までに①②の両方を終わってください。

①参加費支払い

- 参加費支払いサイト(5月25日(水)前納参加メ切, 6月19日(日)当日参加メ切)

<https://color-science.jp/formmail/zenkokutai2022sankahi.html>

※原則は、PayPal(クレジット払い、または、銀行引落)ですが、ゆうちょ銀行への直接振込も受け付けます。

※共著の共同発表者は、非登壇者になります。

※賛助会員団体・企業の会員・社員の方は、正会員と同じ扱いです。

※研究会の準会員は、非会員の扱いです。

※名誉会員は、参加費無料ですが、参加登録はしてください。

	会員区分	前納参加費 5/25メ切	当日参加費 6/19メ切
登壇者	正会員	6,000円	—
	学生会員	3,000円	—
	非会員	8,000円	—
	学生非会員	4,000円	—
非登壇者	正会員	6,000円	8,000円
	学生会員	1,500円	2,000円
	非会員	8,000円	8,000円
	学生非会員	2,000円	2,000円

②参加登録

- 参加登録サイト(5月25日(水)前納参加メ切, 6月19日(日)当日参加メ切)

<https://forms.gle/Qcf3wc1d6GGgP6X86>

※必ずお支払い直後に参加登録までお願いします。(お支払い完了通知も兼ねます)

※現地での新型コロナ感染防止準備のため、最終のお申込みも6月19日(日)までを原則とします。

問合せ先 第53回全国大会実行委員会: zenkoku2022@color-science.jp

学会事務局: 03-5913-7079



登壇者の皆さんへ

- 参加費支払いと参加登録は、5月25日(水)前納メ切までに終わってください。
- 「椋山女学園大学での参加」または「Zoomを使った遠隔地からの参加」のどちらかを選べます。
- 全発表がスライドを使った口頭発表です。ポスター発表はありません。
- 登壇者は、各セッション開始10分前に、会場またはZoomに集合してください。点呼、画面共有やマイクテストを行います。
- 1件につき、発表10分、質疑4分(15分刻み)で進めます。
- その他、個別にメールで案内がありますので、その指示に従ってください。



広告募集

日本色彩学会では、スポンサー様による広告を募集しています。6月末までに申し込みいただいた場合、特別に本ページや参加者限定ページへも広告を追加させていただきますので、ぜひこの機会にご検討ください。

日本色彩学会 スポンサーページ

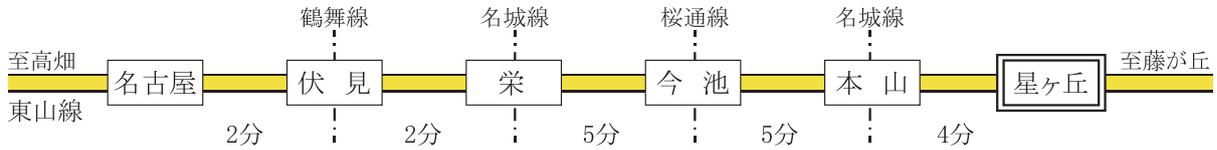
<https://color-science.jp/links/sponsors/>



アクセスマップ

会場へのアクセス

名古屋市地下鉄路線図



最寄駅「星ヶ丘」から会場までの案内



- ① 地下鉄東山線(星ヶ丘)下車, 6番出口から星ヶ丘テラスに沿って, 星ヶ丘自動車学校手前の信号まで前進
- ② 信号手前を左折(渡らない), そのまま直進し, エスカレーターを利用して「希望橋」まで穏やかな坂を上る
- ③ さらに, 穏やかな坂を上り, 「榊山人間交流会館」を右折して「人間橋」を渡る
- ④ 図書館を経由して, 三又に分かれた道路の左の道を東上する



タイムテーブル

6月25日(土)

	A会場 (B1F)	B会場 (B2F)
8:45~	受付	
9:15~10:05	総会	
10:05~10:10	開会挨拶	
10:25~11:40	1A カラーデザイン (5)	1B 顔・表情 (5)
11:40~13:00	昼食休憩	
13:00~14:20	招待講演 伊藤 望氏 〈三鷹の森ジブリ美術館〉	
14:40~16:00	特別学術講演 針山 孝彦氏 〈浜松医科大学医学部〉	
16:20~17:35	2A 色彩文化 (5)	2B 色弁別・金色感・光沢感 (5)

6月26日(日)

	A会場 (B1F)	B会場 (B2F)
8:45~	受付	
9:15~10:30	3A 色彩情報 (5)	3B 色彩教育 (5)
10:40~11:40	4A 技術・測色 (4)	4B ファッション (4)
11:40~13:00	昼食休憩	
13:00~14:00	5A 色覚の多様性 (4)	5B 嗜好・調和・恒常性 (4)
14:10~15:25	6A International-1 (5)	6B 地域・建築・空間 (5)
15:35~16:50	7A International-2 (5)	7B 色彩と感覚 (5)
17:00~17:40	式典	

※発表者はセッション開始10分前に現地/Zoomに集合し、点呼・画面共有・マイクテスト

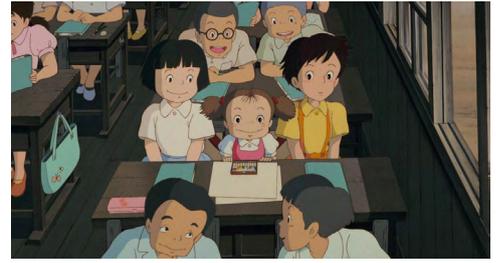
※発表(10分) + 質疑(4分) (スケジュールは15分刻み、()の数字はセッション内の発表件数)

2022年6月25日(土) 13:00 ~ 14:20

〈招待講演〉

「アニメーションの色彩
～スタジオジブリ作品を彩った保田道世氏について～」

伊藤 望氏 (三鷹の森ジブリ美術館・学芸員)



© 1988 Studio Ghibli

アニメーションではほんの一瞬で流れてしまうワンシーンにも、作り手たちが強いこだわりを持って配している“色”がある。そのため、制作工程にはキャラクターの色を決める作業が必要不可欠で、色彩設計や色指定という重要な仕事が存在する。戦後、巨大な動画工房「東映動画」が作られたのをきっかけに、日本のアニメーションは大きな集団で制作されるようになり、個人では難しかった長編作品が生まれ、動画も背景美術も質が高くなっていったが、色彩について言えば、多くの場合、晴天の昼間でも、夜の屋内でも、キャラクターには同じ色が塗られていた。しかし80年代以降になると、“色”は登場人物の印象を決めるだけでなく、実写映画や演劇における衣装や照明の役割も担い、時間帯、季節、空間、素材、人物の心理をも表現し、役割を広げていった。スタジオジブリ作品の色彩は、色彩設計として活躍した保田道世氏の功績抜きには語るができない。保田道世氏が活躍した作品を紹介しながら、アニメーションの色彩表現とその魅力に迫る。

プロフィール：

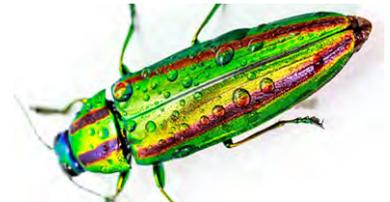
1971年北海道釧路市生まれ。多摩美術大学美術学部油画専攻卒業。1998年スタジオジブリにアニメーターとして入社し、「ホーホケキョ となりの山田くん」「千と千尋の神隠し」などに参加。2004年より広報部に所属し、「崖の上のポニョ」「風立ちぬ」「かくや姫の物語」など新作映画の関連書籍を担当。2015年より三鷹の森ジブリ美術館学芸に配属、以降学芸員としてジブリ作品の収集、保存に携わり、「レイアウト展」「高畑勲展」などの展覧会に学芸担当として参加。現在、アニメーション関係者の取材を重ねながら主に昭和時代のアニメーション作品の特色、技法、スタッフについて調査研究中。

2022年6月25日(土) 14:40 ~ 16:00

〈特別学術講演〉

「蟲(生き物)が観る世界を学び持続性社会を実現する蟲鳥学の創成」

針山孝彦氏 (浜松医科大学医学部・教授)



夜行性動物になったヒトの先祖は色覚を失い、その後、色彩を取り戻したため、ヒトの色弁別能は、視細胞のスペクトル受容帯域から推定される他の多くの動物よりも劣っている。また直線偏光や円偏光を識別できる動物が知られているが、ヒトはその能力を持たない。それにも関わらず、人間は、ヒトの視覚能が他の動物よりも勝っていると信じて疑わない。ヒトはタマムシ鞘翅の色と金属光沢を識別できないが、タマムシは両者を識別でき、鞘翅の構造色を同種間のコミュニケーションのための信号として用いている。我々は、地球を席卷している人類の尺度で環境を理解するだけでなく、生きとし生けるもの達それぞれが持つ情報世界を理解し、蟲の世界観とともに生態系のバランスを保つ技術確立が必要となった。我々を取り巻く色彩の世界を、他の蟲たちがどのように見ているのか、他の感覚 Modality が融合したときどのような行動変容が起こるのか。エネルギー論を中心に語られている生態学に、生物の情報世界の理解が加わることが必要である。

プロフィール：

1983年東北大学応用情報学研究センター応用生体情報学助手、2001年浜松医科大学医学部助教授を経て、2004年同大学教授。その間、オーストラリア国立大学、ニュージーランド・ワイカト大学(南極スコット基地)、ケニヤ・ICIPE(国際昆虫生理生態研究所)、フィンランド・ヘルシンキ大学、オランダ・グローニンゲン大学、イタリア・フィレンツェ大学の客員教授などを兼任。現在は、浜松医科大学・光先端医学教育研究センター・ナノスーツ開発研究部にて、電子顕微鏡内で生きたまま・濡れたままの生物試料を観察する技術(NanoSuit®法)の研究を推進。2019年に大学発ベンチャー・NanoSuit(株)を設立。

プログラム

全66件の発表の内訳は、カラーデザイン発表が5件、残りが研究発表です。また、分野は、色弁別、測色、画像処理、色覚多様性、照明、顔・表情、嗜好、教育、文化、景観・建築、ファッションなど、広い分野にまたがっています。発表者については、メーカー勤務やフリーランスの方々が10件、残りが教育・研究機関の所属の方々です。また、International Sessionにおける英語発表は10件、発表奨励賞の対象となる満30歳未満の発表は15件あり、発表者も多様です。

- ・登壇者、聴講者とも「椋山女学園大学での参加」または「Zoomを使った遠隔地からの参加」のどちらも選べます。(参加登録者には、6月初旬に参加形態を改めて調査します。1日目と2日目を異なる参加形態にもできます。)
- ・全発表がスライドを使った口頭発表です。ポスター発表はありません。
- ・発表者は、各セッション開始10分前に、会場またはZoomに集合してください。点呼、画面共有やマイクテストを行います。
- ・1件につき、発表10分、質疑4分(15分刻み)で進めます。

6月25日(土) AM

A会場 1A カラーデザイン(10:25~11:40)

1A-1	“日本の美しい色風景”プロジェクトのサイト制作	川澄未来子(名城大学) 三木 学, 羽成隆司, 林 英光
1A-2	“日本の美しい色風景”プロジェクトのロゴマークデザイン	多田真奈美(㈱シック), 川澄未来子, 林 英光, 三木 学
1A-3	第53回全国大会[名古屋]’22のビジュアルデザイン	渡辺真由子(愛知県立芸術大学), 川澄未来子, 祖父江由美子, ながなわ久子, 林 英光
1A-4	表面の色が変化する錯視	桑山哲郎(3Dフォーラム)
1A-5	シュブルール「色彩の同時対比の法則」を用いたパッチワークキルトの制作	江良智美(東京家政学院大学)

B会場 1B 顔・表情(10:25~11:40)

1B-1	顔の明るさ知覚へのメラニン・ヘモグロビンの影響	北野卓久(千葉大学大学院融合理工学府), 佐藤弘美, 溝上陽子
1B-2	顔の印象が「似合う色」判断に及ぼす影響	森田愛子(広島大学), 山下彩花, 渡辺樹里
1B-3	顔色が表情の類似度認識に与える影響	道下 涼(千葉大学大学院融合理工学府), 山田真希子, 佐藤弘美, 溝上陽子
1B-4	照明の分光強度分布がオンライン会議における顔の見えに与える影響	岩崎拓真(千葉大学大学院融合理工学府), 佐藤弘美, 溝上陽子
1B-5	リップカラーの違いが肌の色の見えに与える影響-視対象の提示方法の違いによる検討-	駒井香里(同志社女子大学), 賀好舞由紀, 奥田紫乃, 岡嶋克典

6月25日(土) PM

A会場 招待講演(13:00~14:20), 特別学術講演(14:40~16:00)

招待講演	アニメーションの色彩~スタジオジブリ作品を彩った保田道世氏について~	伊藤望氏(三鷹の森ジブリ美術館・学芸員)
特別学術講演	蟲(生き物)が観る世界を学び持続性社会を実現する蟲鳥学の創成	針山孝彦氏(浜松医科大学医学部・教授)

A会場 2A 色彩文化(16:20~17:35)

2A-1	色で読み解く映画の楽しみ方-アニメーション映画編-	松田博子(カラーコンサルタントスタジオ, 立命館大学非常勤講師)
2A-2	中国と日本での色名と色認識の違い-赤と紅, 青と藍	浅野 晃(関西大学), 中村美智子, 浅野(村木)千恵
2A-3	日本語話者と中国語話者が想起する多様な色名	楠本晴樹(北海道大学), 川端康弘
2A-4	かさね色と日中の服色文化	國本学史(慶應義塾大学/黄岡師範学院), 曲 音
2A-5	音楽を参照とした色彩研究	鄭 曉紅(中国人民大学)

B会場 2B 色弁別・金色感・光沢感(16:20~17:35)

2B-1	色弁別の知覚学習がカテゴリカル色知覚を変化させる	堀内涼葉(東京工業大学), 永井岳大
2B-2	視覚特性の個人差を考慮したipRGCが色弁別に与える影響の考察	大津昌也(千葉大学大学院), 田中 緑, 堀内隆彦
2B-3	高齢者の生活環境における色彩弁別能力の評価~100Hueテスト色刺激を適用したカラーカード提示による弁別評価の試み~	吉澤陽介(木更津工業高等専門学校), 小粥将直
2B-4	金色の見えを想定したプロジェクションマッピングによる色票の金色知覚	櫻井将人(静岡理工科大学), 山本二千翔
2B-5	“演光沢感性”に関わる照明環境特性の探索	永井岳大(東京工業大学工学院情報通信系), 牧平顕也

6月26日(日) AM

A会場 3A 色彩情報(9:15~10:30)

3A-1	絵画画像の微細色面に着目した再帰的畫面分割に基づく階段関数系による色彩分析の試行	室屋泰三(国立新美術館)
3A-2	分光画像情報と三次元情報の統合に関する検討	土居元紀(大阪電気通信大学), 西省吾, 来海 暁
3A-3	スマートフォンカメラによるマルチバンドイメージング	西省吾(大阪電気通信大学), 大寺 亮, 富永昌治
3A-4	差分進化法を用いたデジタルカメラ分光感度推定シミュレーション	佐田元輝(立命館大学大学院情報理工学研究科), 篠田博之
3A-5	サブ画素配列のディスプレイMTFが知覚的解像度に与える影響の検証	安渡 翼(千葉大学大学院), 田中 緑, 堀内隆彦, 正岡顕一郎

A会場 4A 技術・測色(10:40~11:40)

4A-1	間接陽極酸化によるニオブのカラーリング技術:単色からオイルスリック模様まで	國母優香(工学院大学大学院工学研究科), 阿相英孝
4A-2	LED スペクトラルチューナブル光源による補助標準イルミナントD50の実現と既存標準光源との比較	神門賢二(産業技術総合研究所), 渡 脩
4A-3	ドーム型照明を用いた非接触式測色システムの開発その7:光トランプ形状の検討	酒井英樹(大阪公立大学大学院生活科学研究科), 伊奥田浩志
4A-4	構造色を持つ顔料の異なる照明光下における評価	玉木伽奈(芝浦工業大学), 田内一輝, 田邊匡生, 関 天嘉, 日高杏子

B会場 3B 色彩教育(9:15~10:30)

3B-1	3DCGIにおける色彩に対する意識と色彩教育の重要性について	森友令子(オフィス森友)
3B-2	色覚多様性の観点から色彩を教育するための要点整理	村谷つかさ(九州大学大学院芸術工学研究院), 須長正治
3B-3	図画工作や美術の授業における色覚多様性を意識した色彩教育の実態調査	主税礼菜(九州大学大学院芸術工学府), 村谷つかさ, 須長正治
3B-4	色彩教育におけるデジタルデバイス用配色トレーニングアプリケーションの開発 -アプリケーションの開発について-	折戸隆樹(東京都立産業技術大学院大学), 河西大介, 大野 綾, 越水重臣
3B-5	色彩教育におけるデジタルデバイス用配色トレーニングアプリケーションの開発 -アプリケーションの評価と分析-	河西大介(東京都立産業技術大学院大学), 折戸隆樹, 大野 綾, 越水重臣

B会場 4B ファッション(10:40~11:40)

4B-1	髪のデザインカラーによる女性印象の操作に関する基礎的検討	長野智彦(花王株), 中岡志保, 池田 浩, 行場次朗
4B-2	ブランドサイト掲載画像から探る女性ファッションの配色傾向 -アイテム間の色差を基にした解析-	榎 究(実践女子大学), 堀内萌加, 安原亜美
4B-3	被服選択における色嗜好と性格特性の関係	中村信次(日本福祉大学)
4B-4	服飾系大学で学ぶ学生の色嗜好について-クラウド型教育支援サービスmanabaに投稿された画像から見られる色の傾向と固定紙法による嗜好色結果を比較して-	水越 綾(杉野服飾大学)

6月26日(日) PM

A会場 5A 色覚の多様性(13:00~14:00)

5A-1	『Hidden Plate』の特性を組み込む画像変換アプリケーションの制作と検証	濱崎 光(九州大学大学院芸術工学府), 原田拓弥, 村谷つかさ, 須長正治
5A-2	学生が高齢者疑似体験ゴーグルを着用したときの照明光色による顔表面温度の変化	上田直幸(神奈川工科大学), 友部和樹, 佐藤優次, 三栖貴行
5A-3	先天性色弱者におけるカラーネーミングとその色空間	阿山みよし(宇都宮大学), 大古場稔, 石川智治
5A-4	先天少数色覚型の脳内色空間 -先天少数色覚型者の色空間の2面性-	伊賀公一(NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構)

6月26日(日) PM

A会場 6A International-1 (14:10~15:25)

6A-1	The learning effects of color discrimination	Yanan Qiao (Hokkaido University), Yasuhiro Kawabata
6A-2	Effects of lip colour on the recognition of emotion in facial expressions	Yan Zuo (Hokkaido University), Yasuhiro Kawabata
6A-3	Customer's Feelings on Food Photographs affected by Lighting Direction	Chatchai Nuangcharoenporn (Department of Color Technology and Design, RMUTT), Waiyawut Wuthiastarn, Uravis Tangkijviwat
6A-4	Comparison of Thai Tea Color between from Memory and Real Products	Chanida Saksirikosol (Color Research Center, RMUTT), Pappim Chuenjai, Kitirochna Rattanakasamsuk, Chanprapha Phuangsuwan
6A-5	K-mean Cluster Analysis of Representative Color of Thai Alternative Gender	Kitirochna Rattanakasamsuk (Color Research Center, RMUTT), Chanida Saksirikosol, Chanprapha Phuangsuwan

A会場 7A International-2 (15:35~16:50)

7A-1	Hue shift direction under vivid color LED	Phubet Chitapanya (RMUTT), Chanprapha Phuangsuwan, Mitsuo Ikeda
7A-2	Device dependency investigated by simultaneous color contrast	Janejira Mepean (Color Research Center, RMUTT), Chanprapha Phuangsuwan, Mitsuo Ikeda
7A-3	Simultaneous brightness contrast measured by two techniques: Paper stimuli and space	Mitsuo Ikeda (Color Research Center, RMUTT), Chanprapha Phuangsuwan
7A-4	Use of representative gender color for toilet signs	Chanprapha Phuangsuwan (Color Research Center, RMUTT), Mitsuo Ikeda, Wipada Pumila
7A-5	Colors, Color Preferences, and Everyday Objects	Mahshid Baniani (Mejiro University)

B会場 5B 嗜好・調和・恒常性 (13:00~14:00)

5B-1	個人と集団による色彩嗜好の比較検討	稲葉 隆 (日本カラーデザイン研究所)
5B-2	色彩調和論構築のためのディープラーニングの適用の試み(3) - 学習モデルの差が予測調和度に及ぼす影響 -	石原久代 (椋山女学園大学), 浅井 徹, 加藤千穂, 山縣亮介
5B-3	色の見えモードが色光特徴付け法によって作られた配色の視覚的印象に与える影響	服部 雄 (京都大学大学院工学研究科), 石田泰一郎
5B-4	異なる分光分布形状・色度を持つLED照明間における色恒常性	北堂絢菜 (立命館大学), 篠田博之

B会場 6B 地域・建築・空間 (14:10~15:25)

6B-1	地域のイメージと色彩: 富山らしい色彩の調査	秋月有紀 (富山大学)
6B-2	戸建住宅街区の色彩&景観デザインの変遷_千葉ニュータウンの事例より	杉山朗子 (日本カラーデザイン研究所)
6B-3	ルイス・バラガンの建築思想における色彩概念の考察	東 俊一郎 (モンテレイ大学)
6B-4	室内基調色の配色に関する研究 - 壁面色と床面色の配色と印象の関係 -	徐 雯俐 (筑波大学大学院), 周 琛, 山本早里
6B-5	2種の照明光色による室内の色度分布が空間の視覚的印象に与える影響	鈴木雄大 (京都大学大学院工学研究科), 石田泰一郎

B会場 7B 色彩と感覚 (15:35~16:50)

7B-1	塗り絵の色消去が体調や気分に与える影響 - 塗り絵, 線画作成との比較 -	昆野照美 (北海道大学), 川端康弘
7B-2	チョコレートの背景色が味覚・触覚・温度感に及ぼす影響	富田圭子 (近畿大学), 内田 和, 河浦萌海, 船本真由, 澤田美絵
7B-3	癒される色相やトーンの特徴とその効果 - PCCSの単色刺激シート集を用いて -	菊谷敬子 (北海道大学大学院文学研究院), 川端康弘
7B-4	色の調和傾向を説明変数とした香りの選択における確認実験	若田忠之 (早稲田大学)
7B-5	色彩語の細分化と翻訳	日高杏子 (芝浦工業大学)



大会ビジュアル

大会テーマ「カラー・レジリエンス Our transition toward COLOR resilience」に合わせたビジュアルを、渡辺真由子氏(ジュエリーデザイナー, 学会員)にデザインしていただきました。立体パズルにヒントに得たキューブを中心に置くデザインで、背景は広報のフェーズに合わせて3段階に変化していくという凝ったものです。

◆第1弾「Before Day」(2021年12月広報)

開催まで半年。大会の下準備を着々と進めている段階。色彩に焦点を当てて発表を募集するための広報ビジュアル。

【キューブ】名古屋の伝統色(DICグラフィックス社)から7色を選んでネオンカラーで配置(金鯰・杜若・ういろう・大須観音・家康の具足・黄瀬戸・名古屋城銅瓦)

【背景】東山スカイタワー(会場からすぐ)から見た名古屋中心部の夜景(日本夜景遺産として認定)



◆第2弾「Sunrise」(2022年3月広報)

開催まで3ヶ月。久々の現地開催を意識し、名古屋の見どころを強調して参加誘致するための広報ビジュアル。

【キューブ】名古屋の文化的な遺産や造形を9つ選んで配置(名古屋城本丸御殿・オアシス21・藤団子・名古屋市市政資料館・科学館・名古屋城・徳川園・スフォルツァ騎馬像)

【背景】東山スカイタワーから見た夜明けの風景



◆第3弾「Nice Day」(2022年5月広報)

開催まで1ヶ月。紺碧の空に昇った太陽の光と新緑と山々が、参加者を明るく温かくもてなす広報ビジュアル。

【キューブ】眩しく力強い太陽の光とやわらかな虹の輪(ハロ・日暈)の鏡面反射

【背景】東山スカイタワーから見た名古屋東部の風景(右側手前が相山女学園大学星が丘キャンパス)





大会グッズ(安全アメニティ) ※現地参加者に会場受付にて配布予定(写真はイメージです)

現地参加される皆様の安全を守るため、受付にて大会グッズ(感染予防の安全アメニティ)をお渡しする予定です。オリジナルロゴの入ったポーチやマスク、質疑でマイクを使用した後に使える除菌ウェットシートなどです。コロナ前の大会では、印刷したネームホルダーを受付でお渡ししていましたが、ハイブリッド開催では現地参加者が最後まで読めないため、ご自身でお名前を書いていただくようにネームホルダーとペンも入れる予定です。



謝 辞

本大会開催にあたり、公益財団法人セコム科学技術振興財団による学術集会および科学技術振興事業助成、ならびに、公益財団法人大幸財団による第39回学会等開催助成を受けています。記して感謝申し上げます。



実行委員会

- 実行委員長 羽成隆司(椋山女学園大学)
- 大会事務局 山縣亮介(名古屋学芸大学) 石原久代(椋山女学園大学)
- 会 場 石原久代(椋山女学園大学) 加藤千穂(椋山女学園大学)
- プログラム 原田昌幸(名古屋市立大学) 深井英和(岐阜大学) 中村信次(日本福祉大学) 小濱朋子(静岡文化芸術大学)
- 会計・予算 山岸未沙子(愛知淑徳大学) 堀 祥子(名古屋女子大学)
- 企業展示 松本和二(株分光応用技術研究所) 渡邊千穂(豊田合成株)
- 広 報 ながなわ久子(カラープリリアント) 祖父江由美子(アトリエトリコロール) 川澄未来子(名城大学)
- ハイブリッド 深井英和(岐阜大学) 渡邊千穂(豊田合成株) 加藤千穂(椋山女学園大学) 川澄未来子(名城大学)
- 本部リエゾン 下川美知瑠(カラー&ファッションマーケティング+デザイン研究所)
高橋晋也(東海学園大学) 小濱朋子(静岡文化芸術大学) 山内泰樹(山形大学大学院)